週刊循環経済新聞　2017年（平成29年）9月18日（月曜日）

加山興業

途上国から医療関係者が視察に

医廃の適正処理・管理を研修

総合リサイクル・廃棄物処理事業を展開する加山興業（愛知県豊川市、加山順一郎社長、☎0533・89・0375）に8月28日、東南アジアやアフリカの開発途上国8カ国の医療関係者12人が視察に訪れた。㈳国際協力機構（JICA）中部国際センターの案内で、医療廃棄物を含む有害廃棄物の適正処理・管理について研修を行った。

来日したのは、カンボジア、ラオス、シエラレオネ、タンザニア、ウガンダ、ザンビア、ブルンジ、リベリアの保健省や病院の実務管理者らだ。これらの国では、有害廃棄物を未処理のまま埋立処分したり、未収集廃棄物が投棄されるといった問題が起きている。各国政府は最終処分場の整備などを進めているが、廃棄物発生量の増加や技術・設備不足のため、解決には至っていないという。

同社は昨年6月から、JICAの「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」の採択を受け、ラオスの医療廃棄物を含む有害廃棄物の処理・管理の改善に向けて取り組んできた。今年7月まで1年かけて4回の調査を実施。将来的には、自社で運用する分別や再資源化、廃棄物の焼却・乾燥技術を駆使した「統合廃棄物処理システム」の現地への導入を目指している。

今回の視察では、同システムの仕組みを説明した他、調査の取り組みやラオスでの病院の医療廃棄物処理、管理方法等の経験などについて意見交換を行った。訪問した12人は、医療廃棄物を専用焼却炉で処理してコンクリート原料にリサイクルする工程も見学し、自国に必要な技術やアイデアを学んだ。

来日した12人が熱心に施設を見学した